

意見交換 「地域産業振興構想」に係る施策に対する評価・検証

本テーマに関して、萩市がこれまで実施した事業は別紙に掲載

① 基本方針Ⅱ 受け継がれる技能・技術を新たな価値の創造につなぎ、個性がひかり、市場を勝ち取る事業を育てる

- 企業誘致について、今萩市はIT企業に力を入れてらっしゃる印象です。誘致企業が萩・明倫学舎に進出され、地元の雇用も増えており、一定の成果は見られる印象です。誘致件数について、数値目標に対しての実績はどうなっていますか。

⇒事務局回答

萩市総合戦略の数値目標では、誘致企業進出を年2件と掲げております。令和5年度4件、令和6年度6件となっており、計画の目標は達成しています。

- IT企業の誘致には一定の成果が上がっている一方、課題は何だと認識していますか。

⇒事務局回答

課題として、萩市の立地上の問題があります。やはり山陽側に比べて、流通の面で不便があります。ただし、そうしたことも踏まえて、新たに進出をしていただいた企業もごさいます。その課題をよく企業と話をし、ご希望に応じた形で、場所を探していく形のオーダーメイド型の企業誘致を進めております。

- 萩に進出したIT企業の方に聞くと、萩市を選んだのは、萩市は歴史があって、例えば投資家に対して、こうしたストーリーで萩市に事務所を作るといったことが言いやすいということも聞きます。そうしたことから、企業が進出する場所として明倫学舎は非常に喜ばれます。
- 今地方は、やはりDX人材が必要です。今IT企業に入ってもらってる人材が萩市の他の企業に流れてくれば、それがDX人材になってくると考えます。まずはITに力を入れておけば、そこから他の企業での事務効率化やDX化が進んでいくのでは、と思っています。
- 萩にはビジネス向けの宿泊施設が少ないことが課題と感じています。

⇒事務局回答

過去に宿泊施設の誘致を進めたこともありましたが、地権者の合意が取れなかったことや、三角州周辺が世界遺産の関係で規制があるなど、実現に至っていません。

- 今、萩に入っているITの会社が、首都圏の展示会にIT関係の方を呼んで、PRなどしています。内容は、萩と山口県の酒の試飲コーナーや、来場者に萩産品や萩焼の配布などを行っています。

- 企業誘致の決め手として、萩の人の魅力が挙げられます。市役所の方と会って話をし、その方の対応がよかったから萩に来たいと思ったと言われることも多いです。首都圏の方は、元々東京にしか田舎がない方がいらっしやいますので、そういう方が直接萩に来られた時に非常に反応がよく、協力してくれるという流れができていると思います。
- 大手IT関係の方がもう5年ぐらい来られていますが、そういう企業のトップがなぜ来られるのかというと、萩の食や、萩のまちなみに魅力を感じて毎年来ていただいているのかなと思っています。
- 萩のIT企業ですが、萩で若い子を採用して萩で働いてもらうということを念頭に置いています。仕事に関しても都心部と同じ仕事をするようになっており、給料水準も都市部と同じになっています。
- 萩のIT企業としては、今萩市の企業さんが「何をDX化したいのか」というところをしっかりと把握しないといけないと思っています。なかなか既存の社員の方で、DXの仕様を出すことが難しく、そこに対して、ITが分かる人材がその支援をすることによって、萩の企業のDX推進が進むと思っています。その人材がまだ萩には足りていないと思っています。

② 基本方針Ⅲ 「ゆったり・じっくり観光」といった滞在型・体験型の観光コンテンツの充実により、新たなまちの魅力を創る

- ちょうど今年から3年間デスティネーションキャンペーンが始まることから、少なからず山口県への人は増えるはずで、新山口駅は、利用客が増えるし、イベントもある。だからそれをいかに萩までつなげるかが大事で、観光団体やホテル業界、飲食組合、酒造組合などが集まって話し合っています。
- 経験上、観光でアジアの方がお金を落としてくれるように思います。欧米だけでなくアジアの方にも目を向けていただいて、福岡や北九州への観光のついでに萩にも来てもらえるような魅力的なものが必要だと思います。
- 萩市は、観光が基幹産業ですし、そこを伸ばしていくということが、萩市の未来につながると思います。そのためには、バス、タクシーなどの二次交通にはしっかり支援をしていくことが大事だと思います。
- 萩は本当にすばらしいイベントがたくさんあるのですが、一過性になって、最終的に何のためにイベントしているのかが分からなくなりがちです。イベントを効果的に継続するため、イベントをする目的をしっかりと踏まえて議論を進める必要があるのではと感じます。その時には、様々な意見を汲み上げるために、積極的に外部人材を使うといったことが必要ではないかと思っています。
- インバウンド等に関しては、全体的な観光戦略の見直し、コロナからアップデートされてないところもあるので、観光協会も観光課とともに作り上げていくことが必要だと思います。体験型コンテンツやまちじゅう博物館の取組も、観光素材として、すばら

しい取組だとは思いますが、例えばホテル等とのセット販売など、横の連携をすることでさらに効果が生み出せるのではと思います。

⇒事務局回答

観光戦略として、萩版 DM0 戦略の見直しを計画しています。その中でも特にアクションプランとして、具体性を持った行動計画にしていこうと考えております。これに関しては観光協会と連携しながら、1 つずつ積み上げていきたいと思っています。

- 今、萩の飲食店では、大阪や県内他市から若い方が来て勤めています。それは、現地の漁師さんや、生産者から萩の食材を直接仕入れており、魚の処理など、板前に必要なスキルをすべて学ぶところに魅力を感じて来ていただいています。萩は料理を作る職人さんたちにも魅力のある町なので、そうした人材を萩で育成することを考えてみてほしいと思います。
- 萩には、食材といいお店がたくさんあるのですが、ミシュランガイドに掲載されるような店舗が山口県内にもなく、そうした世界的権威の評価をもらう店舗を創るということも、食で人を呼び込むには、必要かなというふうに思っています。
- 今、水産業振興の対策、取組として「海業」と言いまして、海とか漁村の地域資源を生かして、地域のにぎわいとか、所得の向上、雇用を生み出すための取組を進めています。萩の漁協では、玉江で実際に生きのいい萩の魚を見てもらったり、漁の様子を見学してもらう、また干物づくり体験や魚料理コンクールなどを漁協女性部さんが中心になって行っています。
- モニタリングで海の中を業者に調べてもらった時に、ダイバーさんから、「萩の海はものすごく綺麗で、こんなきれいな海は他にはない。」と言われます。せっかくのそういった海を使ったらいろんな体験とかプランがあればいいなと思います。
- お客様を萩に連れて来て思うことですが、このたび配布された体験コンテンツの中身をほとんど知りませんでした。萩に来たお客さんに対して土日に関心があるかと聞かれても、「あんまりないよ。」と言ってしまっています。同じように萩の住民の方がどれだけ知っていच्छるのかなと思います。
- 萩の食べ物屋さんや体験コンテンツで、不定期の休みが多いことが観光にとってはマイナスだと感じています。
- 萩の夜の街の人通りの少なさには寂しさを感じます。やはり夜出かける場所が少ないことが課題と思います。
- 観光にとっての重要な課題が移動手段だと思います。タクシーがあまりにも少なく、夜になるとほぼないということがあります。難しいとは思いますが、萩市でウーバータクシーを活用することを考えてはいかがでしょうか。

⇒事務局回答

ウーバータクシーに近いものでは、日本版ライドシェアというのが始まっておりまして、市内でも1社登録されました。今は人手不足もありますが、働き方改革もあり、タクシー業界は夜間の人手はかなり厳しい状況です。市民生活の足も含めて、移動手段の持続性を踏まえて検討していきます。

- 昨年の春に、香港から 40 名近くの方が、萩の桜を見ながら酒蔵をマラソンで巡るイベントを自分達で考えられて観光されました。またその後、田植え体験にも来られました。マラソン大会みたいなイベントは、道路の規制などがあって難しいと思いますが、アジアのインバウンド誘致を図るために、何かしら市の援助があればと思っています。
- 「萩市の新たな体験コンテンツ」が、もっと多くの人の目に触れるよう、駅や人が来るところなどへの周知が必要と思います。